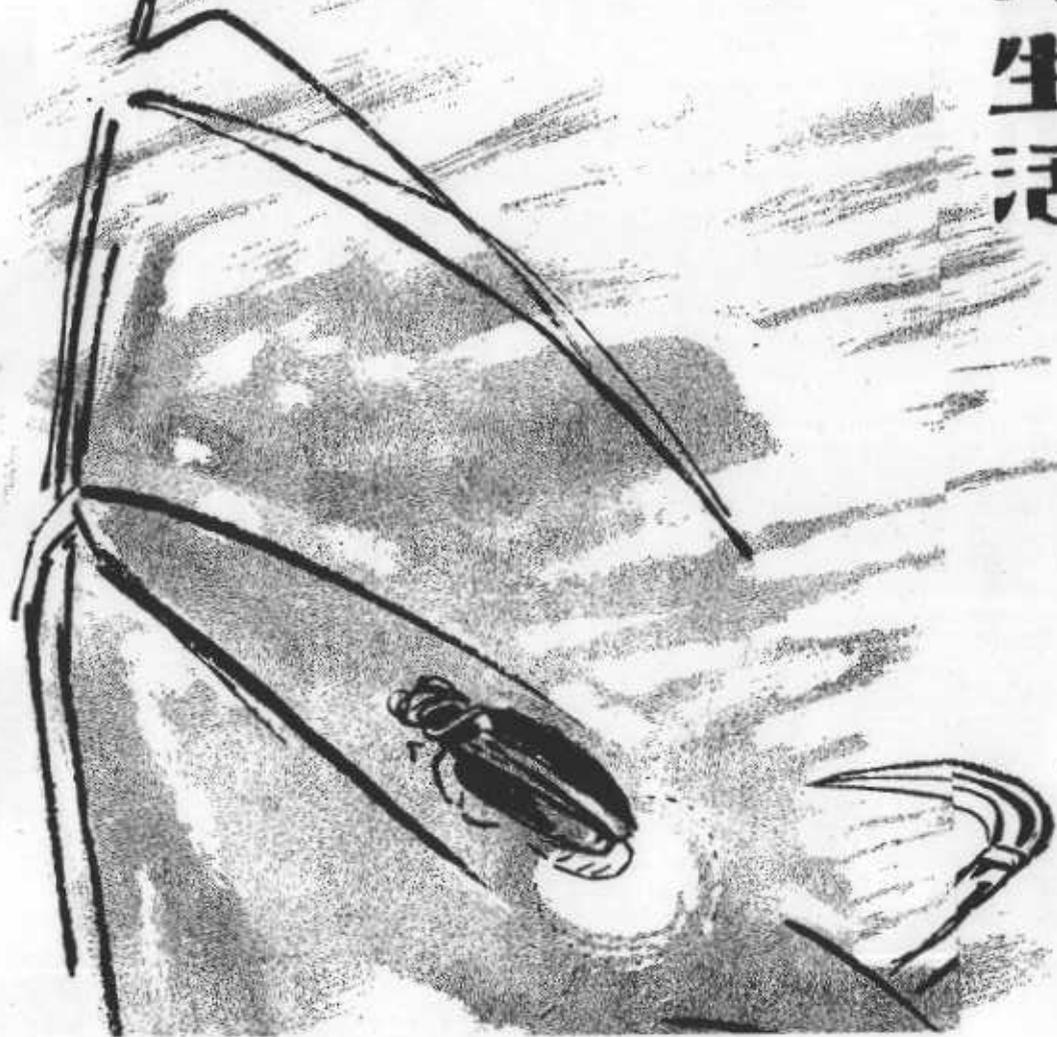


信仰生活

信仰生活



附録 目次

往き易きところへ……………三八

仰臥録……………三九

一、四十八願講話……………三九〇

二、警句集……………三九〇

三、言行録……………三九五

四、極樂地獄……………三五三

目次終

信仰生活

一、自叙略傳

三十七年間愛撫せられたる鴻恩——河村先生の慈愛——大學時代銀行時代——一大轉變
 —安溪先生を求め得て大目的を達得——葬式萬端——私の滅後。

父上へ。 大正十二年十一月廿八日

三十七年間寸刻も忘れず愛撫せられたる鴻恩は、餘りに尊いことです。今日難症に災せられて、再び起つ能はず。命終漸く迫らんとするに際し、古稀の壽を越させられたる、父上様の御胸の中を、察しまゐらせては、正に斷腸の思があります。何といふ不孝の兒としての苦痛でありませう。

幼少年時代は、誰れにも勝りて、悪戯にふけりあるきしこととて、御迷惑御心

配の程も、容易なことでなかつたでせう。中學校より高等學校の時代殆んど無事私も心行く迄、青年學生の他意なき愉快さを、味ふことが出来ましたが、唯一の嗣子を、膝下より離し置き玉ひては、事毎に御辛勞の種となりましたでせう。大學四年の月日は、素純にして健實に送ることができました。是れ偏へに、河村善益先生の慈愛に浴することが出来たからです。私が父上に幾分か、不孝でなかつた時代、ありとすれば、其間の歳月であります。大阪に於ける一年半は、殆んど學生時代の延長の様です。大正二年より八年に亘る銀行時代は、不幸にして無意義に暮しました。遺憾殘懷の至りです。徒らに俗惡なる世態に順應し、何等の反省なく自信なく、さては物欲を謳歌せんとする程に、墮落しました。従つて父上様へ多大の御心痛をかけたことであります。私の一生より此六年間を抹殺したものです。恐るべき病魔も亦、此間隙に侵入した譯であります。

大正八年秋以來の病氣は、私の心意に一大轉機を來しました。醫師より不治の

難症と宣告せられ、一旦は斷頭臺に上りました苦痛は、並々ならぬものがありました。私にも増して父上が黙々として、此痛々しき状態に居られた御恩は、察し申上ぐるも忍びませぬ。併し私が信仰を求め、安溪先生を求め得て、人生究竟を體得し、稍々その大目的を達し得たることは、洵に慰悅の至極です。今日私の心裡は、父上の充分御領解なき所かも知れませぬが、正しく大安心は人生の目的であり、世に幸福なるものありとせば、其の最なるものでありませう。私は實に人間として、到達すべき所に到達したのであります。五十年百年の壽が與へられても、恐らく現在の私の主觀上の平安の如きはありますまい。私は此信念の平安を尙久しく此世にありて、色味したいのであります。許されざる計りであり、大慈悲の佛は恐らく、別途の方便を授け賜ふでありませう。茲に於てぞ、心神爽快に瞑目する所以であります。

終りに私の葬儀萬端は、悉く簡單に願います。何も費用節約、生活改善の如き、

流行主義から申すのでありませぬ。葬式佛事と稱するものゝ、現時之を盛んにする意義の、不判明なるが爲めです。屍體を運ぶには、簡單なる籠で澤山です。輿などは御免蒙ります。その他忌日法要の如き、能ふ限り單純なるを希望致します。省略せらるゝは却つて望まじき所です。香典、造花等の寄贈は御断り下さい。新聞の廣告も廢止されたし、やむなくば極めて簡單なるを願ひます。出入人中特に御厄介を多くかけたる人々には、最善の謝禮を考へ下されたし。

その代りに御願致しますが、私の滅後に於いても時々、安溪先生を招請して、法話の會を催して頂きたうございます。一年に三度以上、私の命日若しくは其他の日を選んで講話を願ひ、私の親愛なる人々に私の家へ打ち寄りてもらへば、私の満足にすぐるものありませぬ。已上

二、最後の五年

法を聽くこと五年——自叙傳——同朋生 活——私の影は次第に大——かくして私は永遠に死にませぬ。

新年御芽出度うございます私から申あぐる御挨拶としてはまことにふさはしからぬやうですが、亦今迄にないはげしい嬉しささへありますので心底からかく曰ひ度くもありません。

大正八年の春なかに初めて先生に親しむやうになつてから今日で足掛六年を經新年を迎ふること五度びになります。其内三度迄病床に苦しみながら迎へた次第で、自ら願ひて些か悲壯の感さへあります。今後もどうなるか判りませぬが恐らく新年の賀詞を述ぶるのも必ずや之が最後でありませう。

法を聽くこと五年、親鸞聖人は早く師上人と訣別の秋に會せられました。私

大正十三年十一月五日發行
大正十四年六月十日再版

普及版

定價金參圓

版權
所有

編輯者 石 黒 久 義
發行者 京都市間之町二條上ル
印刷者 藤 澤 淨 圓
印刷所 京都市丸太町川端東入上
同 朋 舍

發行所 富山縣射水郡二口村
安 吉 教 團

發賣元 京都市二條通寺町東入
博 省 堂
攝行代版三七四一七番